

はまなす句会（五月十七日）（百二十二回）

咲き疲れ少しも見せず白牡丹

圭二

鉄線花風の意のまま巻きつきぬ

菊枝

壺に活け都忘れの濃むらさき

由美子

柿若葉抜け切る風のすがすがし

久子

花水木並木となりて誇らしげ

玲子

航跡のゆっくりのこる夏の海

則子

